

助成年度：平成7年度

[所属] 麻布大学 獣医学部

[役職] 客員教授

[氏名] 川鍋 祐夫 (他計7名)

[課題]

沙漠化した村を緑豊かな村に変える計画の策定

－内蒙古 Wulanaodu 村をモデルとして－

[内容]

1. 目的

既往の研究結果を総合し、内蒙古ケルチン沙地にある沙嵐が吹き荒れる、モンゴル族牧民の貧しい Wulanaodu 村を対象として、沙漠の緑化、牧畜の振興を実施し、豊かな村に変える計画の策定について研究する。

2. 研究実施状況

日本の研究者は1995年10月、1996年5月、7～8月、11月の4回中国に赴き、一般牧民および示範戸の土地、草地、牧畜技術、経営状況、および牧民の環境意識の調査を行い、地方行政官や科学者と協議、懇談した。

3名の中国人科学者を日本に招聘し、日本の酪農村を案内するとともに研究の打合せ、懇談を行った。今までの業績により、川鍋と押田は沙漠緑化光栄使者の綬を受け、また、川鍋は応用生態研究所の名誉教授の称号をうける光栄に浴した。

3. 研究結果

1) 村の現状：平均収入は、一戸あたり約350 US\$で中国でも最も貧しい。しかし、積極的な牧民（本研究の示範戸）は、その5～6倍の収入をあげている。その技術と意欲を一般牧民に普及するのが目標となる。

2) 計画の目標と策定の基本方針：積極的な牧民を模範として、収入を倍増、家近くの土地は防風林を完成、草地を完全に改良し、家畜の事故をなくすのを目標とする。

住民が参加する、小規模の投資による、短～中間期の事業計画を策定する。屋敷周辺の沙漠緑化と生活水準の向上を同時に達成する。啓蒙・教育を行って砂漠を緑に、村の活性化に村人が心を合わせて努力する方向に指導する。

3) 沙漠緑化・村起こし計画：(1) 土地利用：移動沙丘が多い奥地の土地と、地形が平坦でかつ便の良い家の近くの土地を区別して土地利用を再編成する。後者に投資して、集約に利用して多くの生産をあげる。即ち、防風防沙林の造成、草地植生の改良、トウモロコシなどの栽培である。(2) 飼料生産：マメ科草により植生を改良し、耕地にはトウモロコシを栽培して、従来の2倍以上の飼料を生産し、冬季用に十分な乾草を用意する。(3) 家畜飼養：豊富な飼料を給与して、栄養を改善し、繁殖、増体、皮毛生産を高める。また、冬～春の損耗と事故を防ぐ、つまり、早く大きく育てて、早く出荷し、従来のままの頭数でも高い収入をあげるようにする。(4) 経営：牧畜を含む複合経営に改め、畜産収入のほか、イネ、トウモロコシなどの農業収入や柳の枝などの林業収入により収入を2倍にする。(5) 達成する手段：上の諸技術の普及、計画目標達成のため、積極的な牧民を指導して実証し、この経営をモデルとして、技術と成果を一般牧民に普及する。また、牧民の中から指導者を養成して、沙漠緑化の組合を組織し、沙漠化防止・緑化運動を行う。